

令和4年度 事業計画

1. はじめに

昨年度(令和3年度)においても、全国的に「新型コロナウイルス感染」の更なる拡大により、北海道では“5月16日から6月20日まで”及び“8月27日から9月30日まで”の二度にわたり「緊急事態宣言」が発令され、その前後も「まん延防止等重点措置」も発令されたところでもあります。

また、強い感染力を有する“オミクロン株”が例を見ないスピードで進んでおり、“令和4年1月27日から3月21日まで”を期間(延長)とする北海道全域を対象とした「まん延防止等重点措置」も発令されており、檜山管内のみならず江差町においても感染者が確認されているところです。

このような状況下でありましたが、“マスク着用”“手指消毒”“ゼロ密”等々の「感染防止対策」をした上で「開陽丸記念館」を開館して参りました。しかしながら、人流が抑制されたものと推察され入館者数の回復には至らなかった中で、修学旅行・研修旅行で来館した小中学校は9校・37パーセント増の33校となり、中でも道外3校・函館圏以外の道内4校が新たに来館するなど、一筋の光が見えて参りました。

このように、全体的には回復の兆しが見えない情勢ではありますが、町内観光関連団体と連携し観光地“北海道江差町”の認知度を高める対策や、函館・みなみ北海道との連携並びに美術館・博物館との連携(どうなんアートリンク等)を図り、少しでも集客が回復するよう努めて参ります。

また、今年度(令和4年度)の入館見込みについては、「新型コロナウイルス感染拡大」が、未だ収束には至っていないことから影響はあるものと想定され、本来であれば実績ベースでの見込みとすべきですが、回復することに期待を込めて、昨年度(令和3年度)同様にコロナ禍前の75パーセント程度に設定し予算積算したところです(入館者14,000人(無料入館含む)・入館料6,000千円)。

最後に、安定的な財団運営を図るためには、町補助金に頼ることなく自主財源(入館料収入)の確保が課題に挙げられるところですが、現実的には程遠いところにある中で、最大の自主財源である入館者(入館料)確保対策について、職員上げて取り組んで参ります。

2. 事業の概要

(1)入館者対策

前述のとおり、「新型コロナウイルス感染」は、未だ収束の兆しが見えない状況から影響はあるものと想定されますが、入館者が回復することに期待を込めて、昨年度(令和3年度)同様にコロナ禍前の75パーセント程度とし、入館者14,000人(無料入館含む)・入館料6,000千円とする予算積算をしたところです。

また、集客への対策は次のとおりです。

〔項目〕

○町内観光関連団体と連携し観光地「北海道江差町」の認知度を高める対策

○町内旅館業者への割引券の配布並びに渡島檜山管内の道の駅等へのパンフレットを配布しての宣伝活動。

○SNSを活用した情報発信

○ホームページを活用しての「開陽丸記念館」の魅力及びPR発信

〔小中学生の研修旅行〕

昨年度(令和3年度)に修学旅行・研修旅行で来館した小中学校は9校・37パーセント増の33校となり、中でも道外3校・函館圏以外の道内4校が新たに来館するなど、効果が表れたことから継続して対策を講じます。

○「開陽丸記念館」入館校への礼状と継続しての研修入館依頼案内の発出

○昨年入館予定校が急遽キャンセルした学校及び入館実績のない渡島檜山管内各学校に対する研修入館の誘致

○函館管内学校研修企画旅行事業者に対し入館及び利用の誘致

〔各種媒体を活用した情報発信〕

○写真資料・映像資料等の無償提供することにより情報発信に繋がります。

○テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等の取材への協力により情報発信に繋がります。

(2)えさし海の駅の活用

○「江差町観光情報総合案内所」は、“北海道江差観光みらい機構”と協力連携し、引き続き双方の窓口業務を行います。

○観光バリアフリーレジャー用品等貸出事業を有料化で実施します。

○図録等の販売については、「ぷらっと江差」に引き続き販売委託します。

(3)「開陽丸友の会」「開陽丸子孫の会」との連携

○「開陽丸友の会」とは、友の会運営への連携協力(平成28年度から事務局会計事務を担当)を継続し、「開陽丸を語る会」を始めとする各種事業への連携協力を図って参ります。

○「開陽丸子孫の会」とは、開陽丸の魅力を全国へ発信することは重要であり、今後も関係者との交流連携を図って参ります。

(4)美術館・博物館等との連携

○北海道内美術館・博物館との広域連携

◇アートギャラリー北海道との連携の継続

◇北海道立函館美術館との相互連携の継続

◇道南地域連携館との相互割引「どうなんアートリンク」の継続

○箱館五稜郭祭実行委員会との連携

◇戊辰戦争終結150周年記念事業実行委員会が、箱館五稜郭祭実行委員会の中に部会として組織され、令和元年度より10年間広域連携事業を継続展開する。「みなみ北海道最後の武士達の物語」での連携

(5)施設の補修・修繕

○管理棟出入口上窓枠修繕

管理棟出入口の窓枠は経年劣化により木部が腐食し落下の危険性がある。
来館者の出入口の真上であるため、危険回避のため修繕をするもの。

○開陽丸記念館入口棧橋手摺り周辺塗装

記念館入口棧橋手摺りも同様に経年劣化により腐食(錆)しており、来館者が手摺りに触れることにより、錆による裂傷等の危険性から最低限の安全性確保のための塗装を施すとともに、景観への配慮も加えての修繕をするもの。

(6)マリーナ指定管理業務

○指定管理業務の期間〔平成31年4月1日から4年間〕

○管理・運営業務〔浮棧橋・ボートリフター等の管理の他 利用料金の徴収〕

○周辺施設の管理・運営業務〔徒渉池・遊漁池の管理の他 緑地草刈り等〕

○各種団体事業等に対する連携協力〔開陽丸広場(マリーナ公園)の開放〕